



株主の皆様におかれましては、平素より当社への格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。当社は、株主の皆様のご期待に応え、これからもトヨタ株を長く保有していただくため、持続的成長に向けたチャレンジを続けていきたいと思えます。そして、「もっといいクルマづくり」を通じて、ステークホルダーの皆様に応援いただけるトヨタを目指してまいります。

今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年11月  
取締役社長

豊田 章男

## Q1.今期の業績について

A1.販売の状況については、北米では堅調に増加したものの、日本やアジア、中近東などで減少したことなどにより、連結販売台数は前年同期に比べ、19万9千台の減少となる427万8千台となりました。収益の状況については、為替変動の影響に加え、原価改善などの収益改善活動が進展したことにより、当前半期の連結営業利益は2,314億円増益の1兆5,834億円となり、連結純利益は1,312億円増益の1兆2,581億円となりました。

## Q2.「もっといいクルマづくり」に向けた取り組みについて

A2.革新的なモノづくりの技術・工法であるTNGA（トヨタ・ニュー・グローバル・アーキテクチャー）に基づく商品開発や、稼働率を高め、モデル切換に柔軟に対応できる競争力のある工場づくりと、こうした活動を支える人材育成の強化を着実に進めています。そして、これらの取り組みを通じて開発・生産された新型車を、12月発売のプリウスを筆頭に、グローバルに展開してまいります。

## Q3.持続的成長に向けたチャレンジとは？

A3.誰もが安全・安心で快適に移動できるモビリティ社会の実現に向けて、当社ではさまざまな「チャレンジ」に取り組んでいます。ITS（高度道路交通システム）の分野においては、クルマとクルマ、クルマとインフラの双方向通信により安全運転を支援し、交通事故の低減に貢献する運転支援システム（ITS Connect）を実現しました。また、自動運転技術の分野では、2020年頃の実用化を目指し開発を進めており、車載システムが適切に周辺環境を認知・判断・操作し、通常走行から専用道路における合流、レーンチェンジや車線・車間維持のデモ走行を実施しています。人工知能の分野でも、運転支援やロボット技術、さらには社会活動全般への貢献が期待されていることから、研究開発の強化のため、米国の2大学と連携研究センターを設立します。なお、これらクルマづくりや次世代技術のための研究開発資金の調達を目的に、当社は中長期の保有を前提とした議決権付き種類株式であるAA型種類株式を発行しました。先行先端技術の開発等により競争力を強化し、持続的成長を実現することで、株主を含めすべてのステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。